《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》橋本竜作

【概要】

認知心理学は人が世界をどのように認識し、行動するののかについて、情報処理モデルをもとに実験を行い、そのモデルの検証を通じて、人の心理過程に接近しようとする学問である。本講義は言語聴覚療法学科の学生が、はじめて受講する心理学分野の講義であることを考慮し、心理機能を測るという体験を織り込みながら認知心理学について学んでいく。

【学習目標】

リハビリテーションの対象となるひとの障害によって生じる心理および行動障害を理解するために、その基礎となる健常の知覚/感覚・記憶・注意・問題解決などの認知過程について知る。

1. 感覚と知覚、特に視覚認知の特性について説明できる。
2. 記憶の分類、記憶のモデルと、測定法について説明できる。
3. 注意の分類、注意のモデルと、測定法について説明できる。
4. 問題解決と推論、感情の認知について説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	認知心理学への誘い	認知心理学について概観する。	橋本竜作
2	感覚・知覚	閾値などを知り、感覚の特性について学ぶ。	橋本竜作
3	感覚・知覚	群化の要因、奥行き知覚について学ぶ。	橋本竜作
4	感覚・知覚	文字などの視覚認知のモデルについて学ぶ。	橋本竜作
5	記憶	記憶の分類を知り、記憶の測定法を学ぶ。	橋本竜作
6	記憶	系列位置曲線を描き、記憶モデルについて学ぶ。	橋本竜作
7	記憶	技能学習（手続き記憶）、潜在記憶について学ぶ。	橋本竜作
8	記憶について （課題提出）	単語リスト学習で体験したことを基に、系列位置曲線に関するレポートを提出する。	橋本竜作
9	注意	注意の分類を知り、注意の測定法を学ぶ。 注意のモデルについて学ぶ。	橋本竜作
10	思考：問題解決と推論	既知の前提から新しい結論を導き出す過程を学ぶ。	橋本竜作
11	言語：概念と知識	概念と、そのモデルについて学ぶ。	橋本竜作
12	感情・情動	感情・情動の認知について学ぶ。	橋本竜作

【評価方法】

小テスト38%、レポート課題10%、定期試験52%
小テスト・レポートで多かった誤りについては講義内で解説する。
試験実施後、問い合わせがあった際には、解答の要点を掲示する。

【備考】

教科書：鹿取廣人 他 編 「心理学」第5版補訂版 東京大学出版会 2020年

参考書：箱田裕司 他 著 「認知心理学」 有斐閣 2010年

その他：講義妨害行為（不必要な私語・携帯電話の使用）や、小テストおよび定期試験におけるカンニング、レポートの盗用などは、学則に従って罰則の対象となることがあります。

【学習の準備】

予習として教科書の関連する章を読んでおくこと（80分）。
講義終了後は資料を精読し、専門用語の意味を中心に理解すること（20分）。
専門用語や理論に関して、自身のことばで説明できるように教科書・参考書を参照してまとめておくこと（60分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。